

【主な質疑応答】2024年12月期 第2四半期決算発表説明会

【全社】

- Q. 上期営業利益成長率（為替中立）は、会社計画からどの程度上回っている？
リージョン別の特徴は？
- A. 営業利益は計画を上回る進捗。詳細はご容赦いただきたいが、特に利益成長に寄与したのは日本と APAC。
- Q. 第2四半期における全社及び海外のコストアップ影響額は？年間想定 270 億円に対する進捗、下期見通しは？
- A. 第2四半期の影響額は想定の範囲内で、国内は対前年 30 億程度、海外は 50 億程度。下期以降、悪化を見込んでおり、年間見通しに大きな変更はない。

【日本】

- Q. 上期及び足元でシェアが落ちているように見えるが、課題認識は？今後の施策は？
- A. シェアについては当社がコメントできる立場にないが、価格改定影響により、特に大容量 PET の数量が減少している。一方、当社上期数量成長は対前年で横ばいに対し、売上収益は対前年+5%成長で、単価は改善した。収益性をしっかり改善し、さらに新たな価値創造、需要創造に力を入れ、事業成長に繋げていく。
- Q. 伊右衛門リニューアルの評価、今後の施策は？
- A. 大容量 PET は昨年 10 月実施の価格改定影響を受けて前年を下回っているが、小容量 PET は前年を上回っており、味わいは評価いただいている。
今後もコミュニケーションの継続に加えて店頭活動を連動させ、お客様に伊右衛門の価値を提案していく。

【海外】

- Q. 英国で発生しているサプライチェーンの問題の詳細は？
- A. 工場内で発生した事故の影響により、稼働率が低下したのが主な原因。
第3四半期からは徐々に回復し、延期していたプロモーションや新製品発売を実施予定。

- Q. 新カテゴリー「-196」の業績貢献想定は？初年度から利益貢献が可能か？
他エリアへの拡大予定は？
- A. 来年、オーストラリア新工場でRTD製造開始予定であり、販売を引き継ぐ準備をしている。基盤事業である飲料事業の成長が最優先ではあるが、既存のプラットフォームを活用し、シナジー創出が可能なエリアは積極的に検討していく。
- Q. フランス・スペインは、2Q（4-6月）業績が弱い印象。市場で何が起きている？
- A. フランスは6月の不安定な天候影響を受けたものの、ブランド力は不変、シェアも維持。スペインは、インディアンティック市場が弱まっており、主力ブランドSchweppesが影響を受けている。
- Q. 欧州は、上期減益。下期の施策は？
- A. 一時期よりは落ち着いているものの、物価上昇率が経済成長率を上回っており、消費環境が他リージョン比較で弱い。また、競争環境激化、PBシフトの影響を引き続き受けている。下期も、各国におけるコアブランド活動継続に加え、CELSIUS や-196等、ブランドポートフォリオ強化を行う。